



2024年5月19日

友ヶ島の海岸植物観察と旧日本軍要塞跡見学

森と海の自然科はこれまで友ヶ島へ2017、2018年に海岸植物の観察と漂着物調査及び旧日本軍要塞跡・灯台(非公開)の見学で訪れました。

友ヶ島は紀淡海峡に浮かぶ神島、地の島、沖ノ島、虎島の四島の総称で汽船の着く野奈浦栈橋は友ヶ島四島の沖ノ島にあります。

島は黒船来航の頃から大阪湾を守る要衝とされ、紀州藩は幕命により友ヶ島奉行を置きました。また、明治時代になるとさらにその重要性が高まり旧陸軍により由良要塞の要所として大規模に整備され大きな大砲を島のあちらこちらに備え、約600人の兵隊が駐屯する要塞となった。第二次世界大戦が終わるまで一般の人は立ち入りができませんでした。今回は友ヶ島の海岸植物観察を中心にして実施いたします。(当日の風等にて友ヶ島フェリーが欠航する場合がありますので、当日出発する前にネットで「友ヶ島フェリー」をご覧ください。) 当日の運航状況が記載されています。

1: 日 時 2024年5月30日(木) 南海加太駅集合 10時20分

2: 行 程 南海難波ー加太駅ー加太港ー友ヶ島(野奈浦栈橋着)ータカノス山展望台(昼食)
10:20 11:00 11:20 (当日のコースは名所探訪コースです)

友ヶ島発(野奈浦栈橋)ー加太港着ー南海加太駅ー南海難波駅(解散)

15:30 16:00 (加太駅発16:23か16:55の電車に乗車予定)

3: 持ち物 弁当、水筒、雨具、ストック、懐中電灯、敷物、その他

4: 歩行距離 3km~4km

5: 雨天判断 前日19時頃の和歌山県北部の降水確率 50%以上の場合

*交通費(南海難波駅より) 難波ー加太往復 2020円 渡船往復 1980円(980円は科より補填)



南海加太駅到着



加太港は大勢の人でごった返していました



友ヶ島



栈橋は工事中です

コース 野奈浦栈橋～第3砲台跡・タカノス展望台（昼食）～幸助松海岸～友ヶ島灯台～栈橋へ



明治29年竣工旧日本陸軍要塞
弾薬支跡(友ヶ島汽船HPより)

友ヶ島概要

紀淡海峡に浮かぶ友ヶ島は、地ノ島、虎島、神島、沖ノ島の総称名。沖ノ島には、旧日本陸軍要塞時代を偲ばせる砲台跡が点在。それらをめぐるハイキングコースが開かれています。

これまで森海では2回訪れていますがいずれも、純白の姿がコバルトブルーの海に見事に映える洋式灯台、第2砲台跡をはじめ、展望台、第3砲台跡、栈橋とめぐり約3時間コースです。

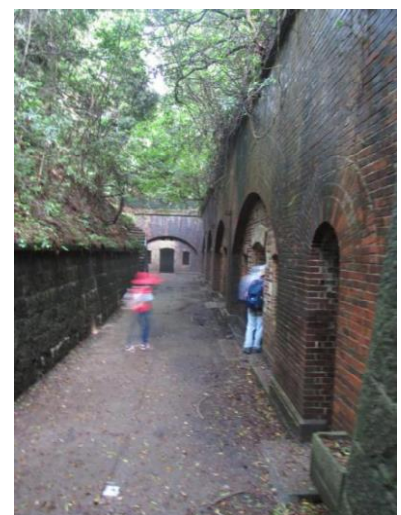
最初は島の東側にある深蛇池までのコースを往復したいと思っていましたが、7年前から立ち入り禁止となっていました。そのため上記のコースにしました。深蛇池へのコースの端には干潮時に渡ることができる虎島があり、ここには役の行者の修験道（葛城修験）にまつわる史跡や行場があります。残念ながら現在虎島には危険ため渡ることができません。



友ヶ島灯台



砲台跡



旧陸軍要塞跡

友ヶ島の植物

友ヶ島の森林植生は海に面した海岸風衝地を占めるトベラ・ウバメガシ群集と海岸から内陸側を占めるホソバカナワラビ・スダジイ群集から成り立っている。島内中央部の深蛇地では、天然記念物の湿地帯植物が群生しており約400種もの植物を見ることができます。以下の植物は前回訪れたときに見られた植物です。ウバメガシ、モッコク、ヤブニッケイ、サカキカズラ、シタキシウ、イワタイゲキ、サカキカズラ、トサムラサキ、ハマボッス、カンコノキ、また、深蛇地にはヒトモトススキ、サンショウモ、イトタヌキモ等の珍しい植物も見られるそうです。なお、林床の草本が貧弱なのはタイワンリス、タイワンシカによる食害によるものです。

友ヶ島で見られる植物



ハマボッス



カンコノキ



イワタイゲキ



ナルトサワギク



シタキソウ



ハウロクイチゴ



ヤブニッケイ



トサムラサキ